

病虫害発生予察特殊報(第3号)について

令和6年9月、由良町のウンシュウミカンほ場において主要な加害種とは異なるカメムシが多数発生し、このカメムシは果実を吸汁しており、加害された果実では異常着色や落果が確認された。そこで、和歌山県立自然博物館に同定を依頼したところ、ミナミトゲヘリカメムシであることが確認された。また、令和6年6月、紀の川市のカキほ場においても本虫と思われるカメムシによる「平核無」、「富有」の幼果への加害が確認されている。

本県のカンキツ及びカキの果実において本虫による被害が初めて確認されたため、令和6年度病虫害発生予察特殊報（第3号）を別添のとおり発表します。

（補足）

県農作物病虫害防除所では、植物防疫法に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

「病虫害発生予察特殊報」は新たな病虫害を発見した場合など、生産現場への影響が懸念される場合に発表します。

（連絡先）

担当課室	鳥獣害対策課	農作物病虫害防除所 有田川駐在	農作物病虫害防除所 紀の川駐在
担当者	岩倉	衛藤、下村	貴志、弘岡
電 話	073-441-2905	0737-52-4320	0736-73-2274

令和6年10月25日

令和6年度病害虫発生予察特殊報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ミナミトゲヘリカメムシ *Paradasynus spinosus* Hsiao
2. 作物名：カンキツ、カキ
3. 発生地域：日高郡由良町（カンキツ）、紀の川市（カキ）
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和6年9月、由良町のウンシュウミカンほ場において写真8のカメムシが多数発生する状況が確認された。このカメムシは果実を吸汁しており、加害された果実では異常着色や落果が確認された（写真1、2）。健全なウンシュウミカン果実に捕獲した本虫を放虫したところ、現地と同様の被害が再現された（写真3）。そこで、和歌山県立自然博物館に同定を依頼したところ、ミナミトゲヘリカメムシであることが確認された。また、令和6年6月、紀の川市のカキほ場において本虫と思われるカメムシによる「平核無」、「富有」の幼果への加害が確認されていた（写真4、5、6）。

本虫は南方系のカメムシで沖縄県ではシークワサーの主要害虫であるが、近年分布を北上させており、九州では昭和48年以降、鹿児島県、佐賀県、福岡県、長崎県で、九州・沖縄地方以外では平成17年に三重県、令和5年に愛媛県でカンキツやカキ果実への加害が報告されている。

5. 本種の特徴

1) 形態

体長 16～23mm の細長い大型のカメムシで、オオクモヘリカメムシに似る。前胸部の側角が鋭くとがり（写真8の円内）、背面は褐色、腹面は淡黄緑色である。

2) 生態

詳しい生態は不明だが、沖縄県のカンキツでの発生ピークは年間2回である。

3) 寄主植物

栽培作物以外での寄主植物はシロモジ、クスノキ等のクスノキ科植物である。

4) 被害

ウンシュウミカンでは、他の果樹カメムシ類と同様、果実が異常着色、落果し（写真2、3）、被害果実には口針鞘が確認される。果皮に近い果肉部にす上がりのような症状が発生する（写真7）。

カキでは、果頂部に被害が集中することが特徴である（写真4）。加害された幼果はその部位が黒褐色となり落果する。被害部位がえぐれたように深く凹む場合も

ある（写真5、6）。

他県ではスモモ、アボカドへの加害も報告されている。

6. 防除対策

本種の発生が確認された場合、カメムシ類に適用のある薬剤を用いて防除を行う。



写真1 ウンシュウミカン果実を加害する成虫



写真2 落果したウンシュウミカン果実



写真3 異常着色したウンシュウミカンの果実と落果痕（矢印）

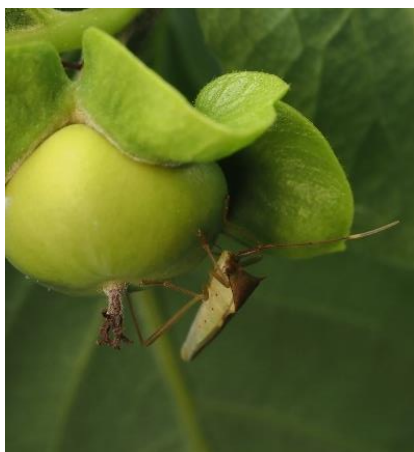


写真4 カキ果頂部を加害する成虫



写真5 被害部が褐変したカキ「平核無」の幼果



写真6 落果したカキ「富有」の幼果

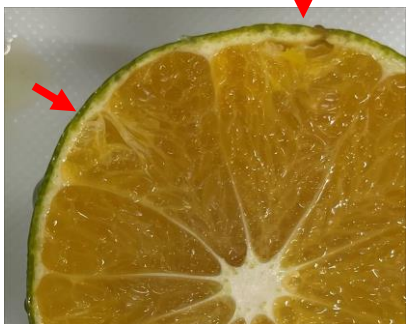
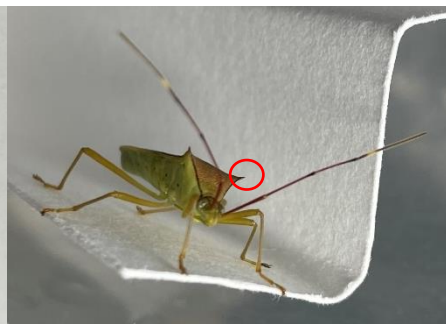


写真7 ウンシュウミカン被害果実のす上がりのような症状



写真8 ミナミトゲヘリカメムシ成虫の形態



和歌山県農作物病虫害防除所

有田川駐在（電話：0737-52-4320）

紀の川駐在（電話：0736-73-2274）